

*QuickRinse*<sup>®</sup>  
*Instrument Rinse System*



# Operator's Manual



**AOI**  
ADVANCED  
OPTISURGICAL INC.



## 梱包内容

QuickRinse のカートンには以下の製品及びアクセサリーが入っています。


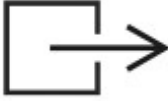



- ★ QuickRinse 本体
- ★ 取り扱い説明書
- ★ ポリボトル(1,000ml)
- ★ ボトルキャップ（フィッティング付き）
- ★ エアー用チュービング
- ★ エアー/リンス用チュービング
- ★ 電源アダプター
- ★ 電源コード
- ★ デュアルリンス用“Y”アタッチメント
- ★ ノーズ・コーン リンスアタッチメント
- ★ アクセサリフィッティングキット
- ★ ナイロンブラシ
- ★ ボトルキャップガasket

## 目次

<b>1.</b>	<b>記号</b> .....	<b>3</b>
<b>2.</b>	<b>警告、注意、注記</b> .....	<b>4</b>
2.1	警告： .....	4
2.2	注意.....	4
2.3	注記.....	4
<b>3.</b>	<b>仕様</b> .....	<b>5</b>
<b>4.</b>	<b>システムの説明</b> .....	<b>6</b>
4.1	システムの特徴.....	6
4.2	操作モード.....	6
4.3	システムのコンポーネント .....	7
4.4	フロントパネル.....	8
4.5	バックパネル .....	9
4.6	トップパネル .....	11
<b>5.</b>	<b>システムのセットアップ</b> .....	<b>12</b>
<b>6.</b>	<b>システムの操作</b> .....	<b>16</b>
6.1	オートモード .....	16
6.2	マニュアルモード.....	17
6.3	フットペダルモード（オプション） .....	18
6.4	ポリーボトルの再充填.....	18
<b>7.</b>	<b>アクセサリー</b> .....	<b>20</b>

7.1	デュアルリンス“Y”アタッチメント .....	20
7.2	ノーズコーンリンスアタッチメント .....	21
<b>8.</b>	<b>システムのクリーニングと滅菌.....</b>	<b>22</b>
8.1	作業中 .....	22
8.2	作業終了時 .....	22
8.3	作業した週の終わり .....	23
<b>9.</b>	<b>小さなゲージのカニューレと器具の洗浄.....</b>	<b>24</b>
<b>10.</b>	<b>よくある質問 (FAQ) .....</b>	<b>25</b>
<b>11.</b>	<b>トラブルシューティング.....</b>	<b>26</b>
<b>12.</b>	<b>アクセサリ .....</b>	<b>28</b>
<b>13.</b>	<b>カスタマーサービス.....</b>	<b>28</b>

## 1. 記号

記号	定義
	<b>警告</b> ：全ての関連情報を読んでください。
	<b>出力</b> ：機器本体の内部にあるポンプからエアーを出力するための接続部分を示します。
	<b>フットペダル</b> ：フットペダルの接続部分を示します。
	<b>DC 極性</b> ：電源コネクタで要求される電極の向きを示します。
	<b>直流</b> ：外部電源で要求される電流タイプを示します。電圧とアンペアの必要事項も一緒に表記されています。

## 2. 警告、注意、注記

### 2.1 警告 :

- いかなる方法であろうと QuickRinse に手を加えないでください。変更を加えると、破損や怪我を引き起こすことがあり、故障する原因になります。
- QuickRinse の部品を、備え付けの付属品または製造者が提供する機器以外の部品と交換しないでください。破損や怪我を引き起こすことがあり、故障する原因になります。
- 爆発性ガスのある所で QuickRinse を使用しないでください。
- QuickRinse のカバーを開けないでください。機器内部には保守点検すべき箇所がありません。
- システムをオンにし、加圧している時、装置のインターフェースチューブを身体または顔面、あるいは QuickRinse 本体に向けてはいけません。
- システムをオンにし、加圧している時、ボトルキャップを緩めたり、チューブラインを外さないでください。故障の原因になります。
- ボトルキャップを緩めたり、エアー／リンス用チューブを外す前に、必ずポリボトルの圧を開放してください。

### 2.2 注意

QuickRinse は“接地した”コンセントのみに接続してください。

QuickRinse 本体、特にフロントパネルに水が溜まらないようにしてください。何度も繰り返し水に接触すると、バルブとスイッチが腐食したり雑菌やカビが繁殖し、性能に有害な影響を与えることがあります。

### 2.3 注記

- ポリボトルが空の時に QuickRinse を操作しても、QuickRinse は破損しません。しかし、接続した装置やチューブを適切に濯ぐため、ポリボトルを空にしないでください。

### 3. 仕様

寸法 :	高さ :	<u>ポリボトルがある時</u>
		27 cm
		<u>ポリボトルが無い時</u>
		11 cm
	幅 :	22 cm
	奥行 :	22 cm
重量 :	未包装 :	2 Kg
電気入力 :		50/60 Hz で 100~240 V
電源出力 :		12 VDC、1.5 A
ポンプタイプ :		一定流量
圧出力 (最大) :	リンス :	400 cc/分
	エアー :	33-36 psi
ポリボトル :		1000 mL
チューブセット		医療グレードのシリコンチューブ

## 4. システムの説明

### 4.1 システムの特徴

プッシュボタン：	フロントパネルに2つのボタンしかない簡単なユーザーインターフェースです。
リンスおよびエアーバルブ：	チューブを伸ばして、バルブの中に嵌め込んで簡単に取り付けます。
フットペダル (オプション)：	手を使わずに操作ができます。
クイックディスコネクト フィッティング：	ポリボトルに素早く水を充填できます。
収納トレイ：	ナイロンブラシとアクセサリフィッティングを入れる場所です。
色つきチューブ：	チューブセットを正しく識別できます。

### 4.2 操作モード

オートモード：	30秒サイクル（15秒のリンスフローの後、15秒のエアーフロー）
マニュアルモード：	ユーザーがフロントパネルのボタンでリンスとエアーが流れる時間をコントロールできます。
フットペダルモード： (オプション)	ユーザーがオプションのフットペダルを使ってリンスとエアーが流れる時間をコントロールできます。



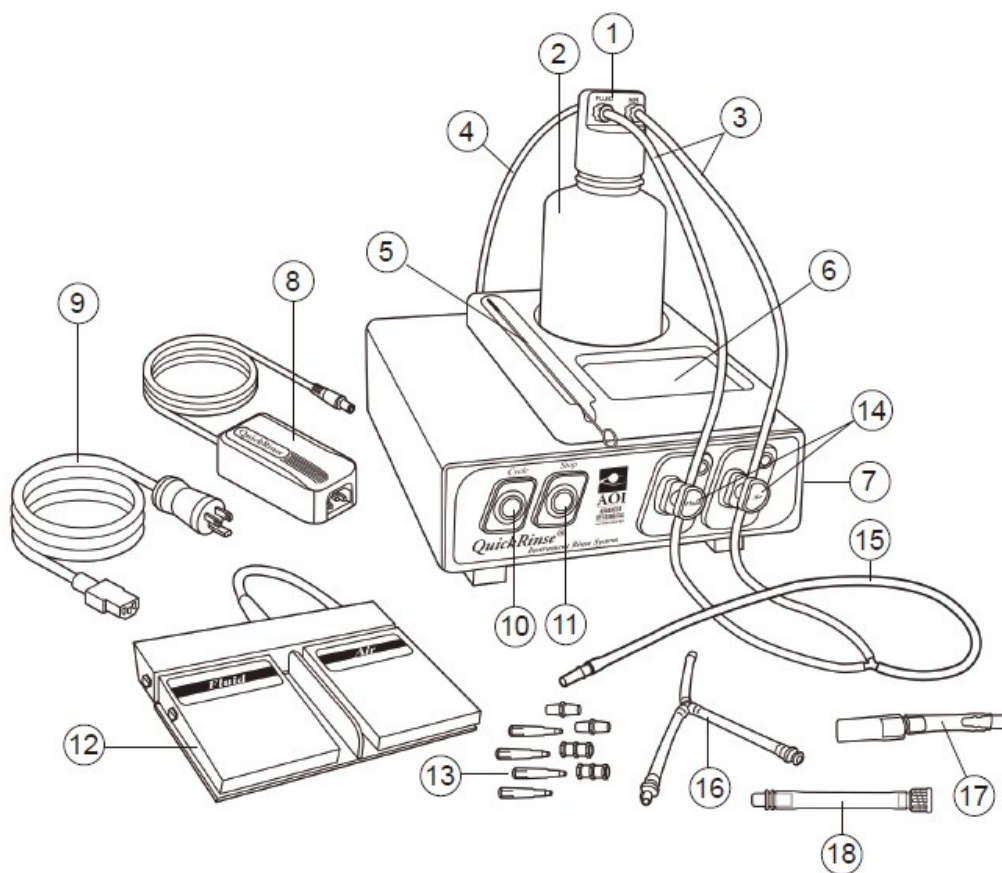


図 4-1 : QuickRinse システム

### 4.3 システムのコンポーネント

- |                        |                                      |
|------------------------|--------------------------------------|
| 1. ボトルキャップ (フィッティング付き) | 10. サイクルボタン (緑)                      |
| 2. ポリボトル               | 11. ストップボタン (赤)                      |
| 3. エアー／リンス用チュービング      | 12. フットペダル (オプション)                   |
| 4. エアー用チュービング          | 13. アクセサリフィッティング                     |
| 5. ナイロブラシ              | 14. リンスバルブとエアーバルブ                    |
| 6. 収納トレイ               | 15. インストルメントインターフェースチューブ             |
| 7. フロントの溝縁             | 16. デュアルリンス用“Y”アタッチメント               |
| 8. 12V 電源              | 17. ノーズコーンリンスアタッチメント                 |
| 9. 電源コード               | 18. Centurion®/Stellaris 用リンスアタッチメント |

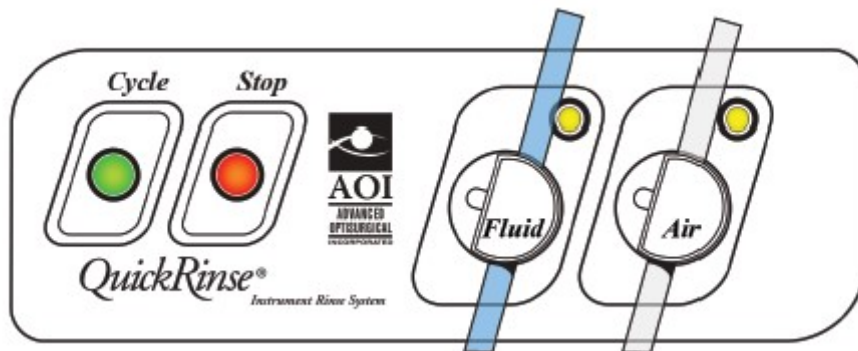


図 4-2 : QuickRinse のフロントパネル

## 4.4 フロントパネル

フロントパネルには以下のコンポーネントが備わっています。

- ◆ サイクルボタン（緑色）
- ◆ ストップボタン（赤色）
- ◆ 液体バルブ（LED インジケータ付き）
- ◆ エアバルブ（LED インジケータ付き）

### 6.4.1 サイクルボタン

サイクルボタンを1回押すと、サイクルボタンのライトが点灯し、システムがオートモードになります。このモードは15秒間のリンスフローと15秒間のエアフローより成る30秒間の濯ぎサイクルです。濯ぎサイクルが終了すると、次の操作のため、システムがリセットされます。

オートモードの時にサイクルボタンを2回押すと、サイクルボタンのライトが点滅し、システムがマニュアルモードになります。リンスフローまたはエアフローの時間をコントロールすることができます。

### 6.4.2 ストップボタン

ストップボタンを押すと、現在の操作が中断され、次の操作のためにシステムがリセットされます。

#### 4.4.3 液体バルブとエアバルブ

いずれかの操作モードを開始すると、液体バルブとエアバルブが設置した装置またはチューブに送る液体またはエアの流れをコントロールします。QuickRinse の操作中に、開いている方のバルブのライトが点灯し、作動中であることを知らせます。

### 4.5 バックパネル

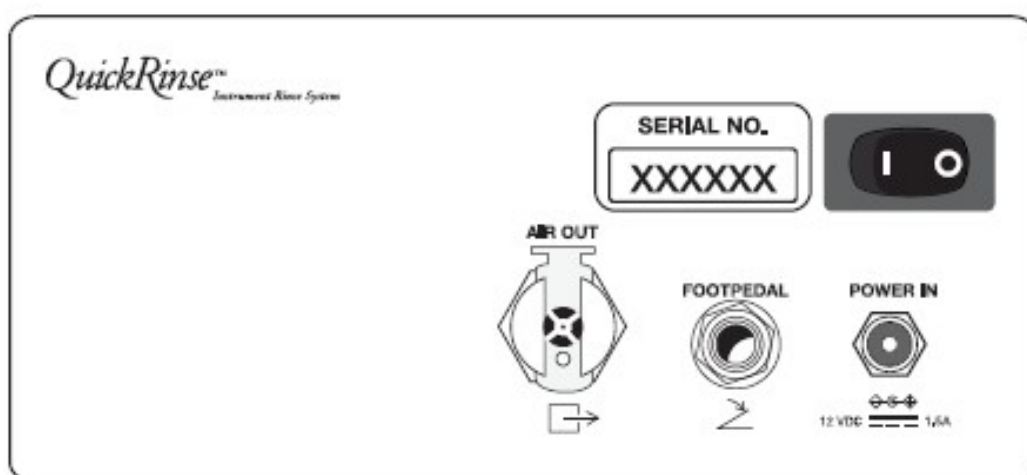


図 4-3 : QuickRinse のバックパネル

バックパネルには以下が備わっています。

- ◆ シリアル番号
- ◆ AIR OUT 接続
- ◆ POWER IN 接続
- ◆ 電源スイッチ
- ◆ フットペダル接続

#### 4.5.1 シリアル番号

システムコンソールはバックパネルに記載されたシリアル番号で確認します。シリアル番号の最初の 2 桁は、機器本体が製造された年です。

#### 4.5.2 AIR OUT

AIR OUT 接続はコンソールのダイヤフラム型ポンプでポリボトルに最大 30 psi でエアを送ります。接続内部のスプリングロック機構で、接続したエアサプライチューブ（緑）が間違っ外れないようになっています。

#### 4.5.3 POWER IN

POWER IN 接続は 12 V 電源から QuickRinse に 12 ボルトの調整 DC 電圧を供給します。



**警告：** QuickRinse に付属した 12 V 電源以外の電源は、互換性が試験されていないため使用してはいけません。

#### 4.5.4 電源スイッチ

電源スイッチは QuickRinse の電源をオンまたはオフに切り替える、ロッカー式のスイッチです。

- ◆ (I) はオン
- ◆ (O) はオフ

#### 4.5.5 フットペダル（オプション）

フットペダル接続はオプションのフットペダルを接続します。フットペダルを使うと手を使わずに QuickRinse が操作できます。



**注記：** フットペダル操作は他の全てのモードより優先されます。

液体フットペダルを踏むと、ペダルを開放するまで液体が流れます。

エアフットペダルを踏むと、ペダルを開放するまでエアが流れます。

## 4.6 トップパネル

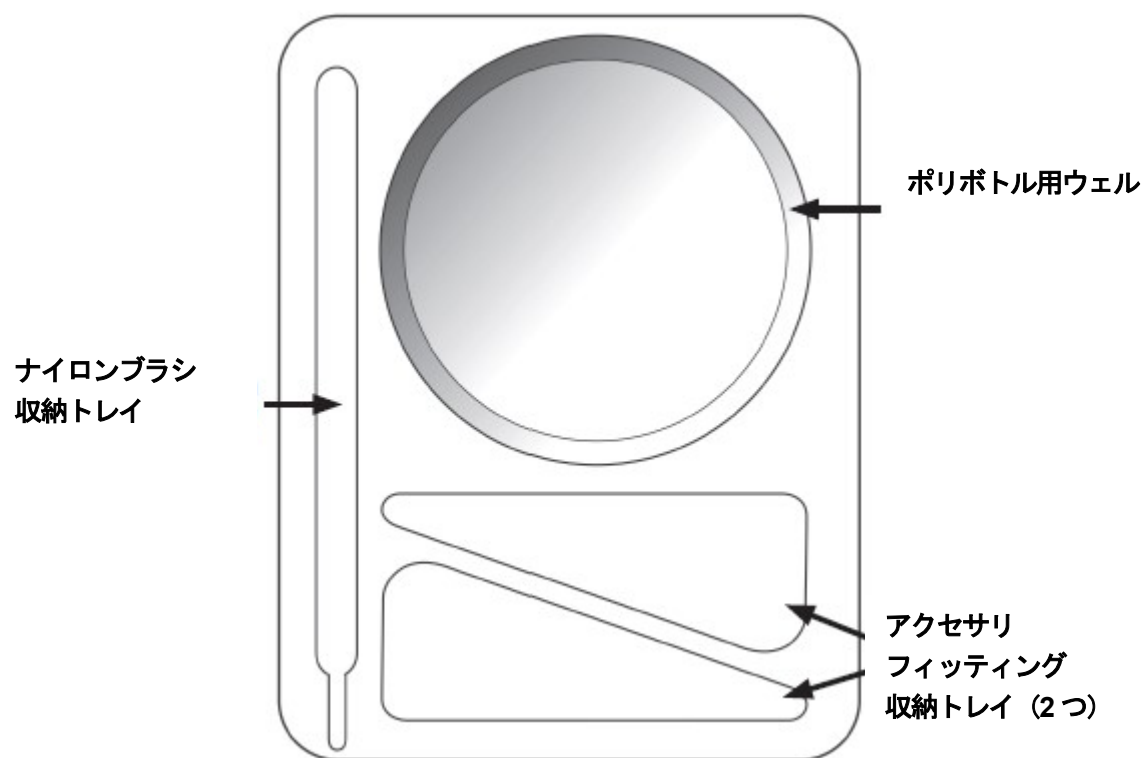


図 4-4 : QuickRinse のトップパネル

QuickRinse のトップパネルにはポリボトルを設置するウェルと、ナイロンブラシを入れる収納トレイ、およびアクセサリフィッティングを入れる 2 つの収納トレイがあります。

## 5. システムのセットアップ

本項では QuickRinse を使用するために必要なセットアップのステップを説明します。

- 5.1 コンソールの裏側に POWER IN と表示された差込み口があるので、12 V の電源コネクタを差し込んでください (図 5-1 参照)

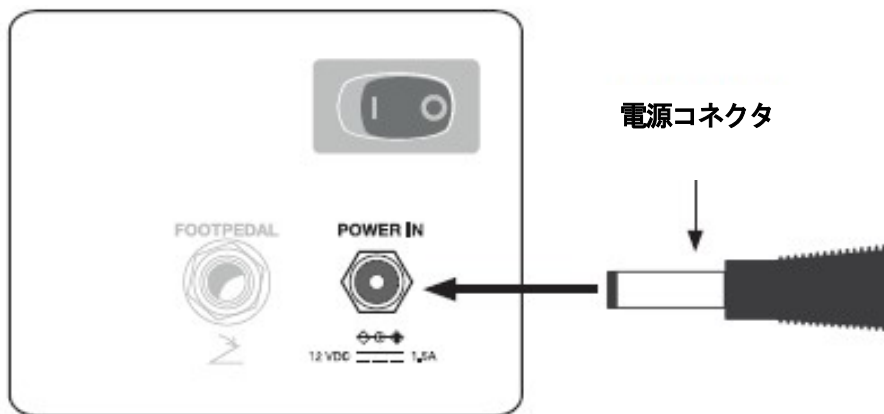


図 5-1 : 12 V 電源の接続

- 5.2 (オプション) コンソールの裏側のフットペダルと表示された差し込み口に、慎重にフットペダルコネクタを真直ぐ差し込んでください (図 5-2 参照)。

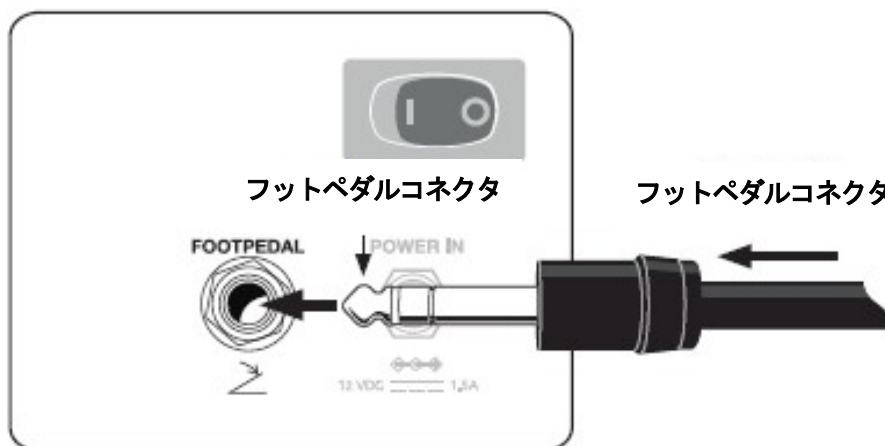


図 5-2 : フットペダルの接続

5.3 (オプション) フットペダルは床に置きます。この場所は、システムと一緒に使う時に最も使いやすい場所とします。

5.4 ポリボトルに蒸留水、脱イオン水、または滅菌水を入れてください。



**注意：** ボトルに水を入れ過ぎないでください。水が流れなくなります。

5.5 ボトルキャップから伸びたサイフォンチューブをポリボトルに挿入し、ボトルキャップをしっかり締めます。サイフォンチューブがボトルの底に達していることを確認してください (図 5-3 参照)。

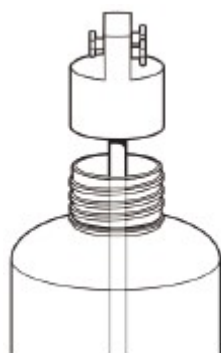


図 5-3 : ボトルキャップの取付け

5.6 ポリボトルをコンソール上面のウェルに入れてください。ポリボトルはボトルキャップの 2 つのフィッティングがコンソールの前側を向くように設置します (図 5-4 参照)。

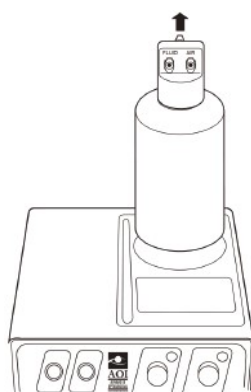


図 5-4 : ポリボトルの位置

- 5.7 エアサプライチューブの金属フィッティング（緑色）をボトルキャップの小さな金属コネクタに、カチッという音がするまで差し込みます。
- 5.8 コンソール裏側の AIR OUT と表示された差込み口の金属タブを抑え、エアサプライチューブ（緑）の他端を、カチッという音がするまで挿入します（図 5-5 参照）。

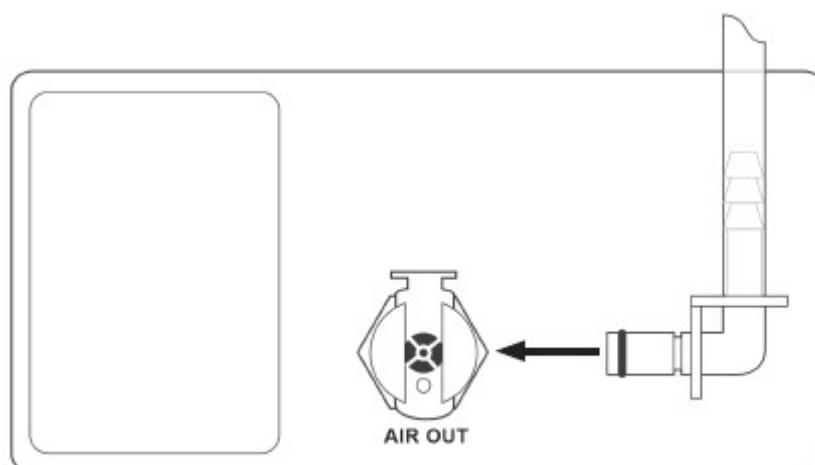


図 5-5 : AIR OUT の接続

- 5.9 エアー／リンスチューブの透明なチューブ上のルアーフィッティングをボトルキャップ上の AIR のラベルが付いた差込み口にぴったり合うまでねじ込みます。エアー／リンスチューブの青色のチューブ上のルアーフィッティングをボトルキャップ上の FLUID のラベルが付いた差込み口にぴったり合うまでねじ込みます。（図 5-6 参照）。

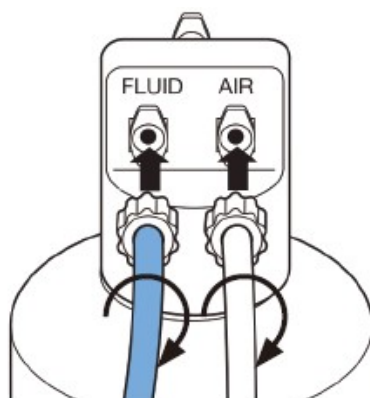


図 5-6 : エアー／リンス用チューブをボトルキャップに挿入



- 5.10 コンソールの正面で、エアー／リンス用チューブを以下のようにバルブに差し込みます（図 5-7 参照）。

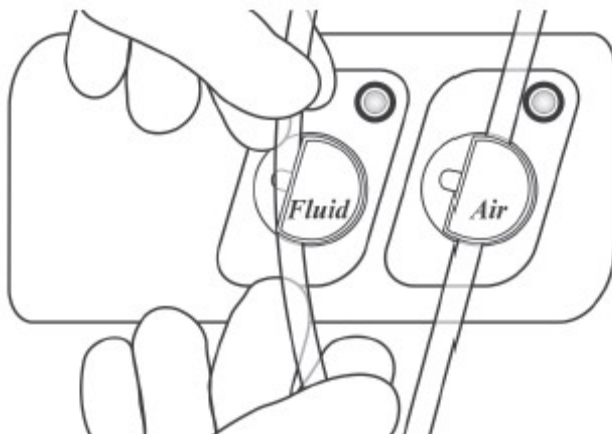


図 5-7：液体およびエアチューブをバルブに挿入する

- 5.10.1 ボトルキャップと“Y”字コネクタの間にある液体チューブの短い青い部分を少し引張ります。
- 5.10.2 伸ばしたチューブを FLUID と表記されたバルブの中に滑り込ませ、入口の後側に設置した後、解放します。
- 5.10.3 ボトルキャップと Y”字コネクタの間にあるエアチューブの短い透明な部分を少し引張りま
- 5.10.4 伸ばしたチューブを AIR と表記されたバルブに滑り込ませ、入口の後側に設置した後、解放します。
- 5.10.5 コンソールのバックパネルにある電源スイッチのオン (I) を押します。この状態で QuickRinse システムが使用できる状態になります。



**重要：** システムを使用しない時は、間違っシステムが作動しないようにするため、必ず電源スイッチをオフ (O) にしてください。

## 6. システムの操作

### 6.1 オートモード

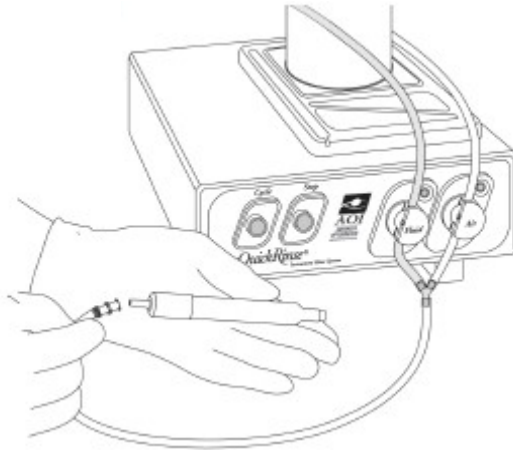


図 6-1 : インstrumentインターフェースチューブの接続

- 6.1.1 インstrumentインターフェースチューブを洗浄するアイテムに接続します。必要ならば、アクセサリフィッティングを使ってください（図 6-1 参照）。
- 6.1.2 接続された器具の出口をシンクまたは廃液容器に向けてください。
- 6.1.3 フロントパネルのサイクルボタンを押します。
  - 6.1.3.1 液体バルブが開き（液体バルブの右上にある黄色のライトが示します）、接続された器具を濯ぎます。
  - 6.1.3.2 15 秒後に液体バルブが閉じ、エアーバルブが開いて（エアーバルブの右上にある黄色のライトが示します）、接続された器具にエアーを送り込み水を飛ばします。
  - 6.1.3.3 15 秒後にエアーバルブが閉じ、サイクルが終了して次の操作のためにシステムがリセットされます。

6.1.4 灌いだ器具からインストルメントインターフェースチューブを外します。

6.1.5 必要ならば、清潔になるまで操作を繰り返します。

## 6.2 マニュアルモード

6.2.1 リンスする器具にインストルメントインターフェースチューブを接続します。必要ならば、アクセサリフィッティングを使ってください (図 6-1 参照)。

6.2.2 接続された器具の出口をシンクまたは廃液容器に向けます。

6.2.3 液体のみ：フロントパネルのサイクルボタンを連続して 3回押し、システムをマニュアルモードにします。マニュアルモードになるとサイクルボタンが点滅します。液体バルブが開き、水が接続された器具の中を流れます。サイクルボタンまたはストップボタンを押すまで水が流れ続けます。

6.2.4 エアーのみ：フロントパネルのサイクルボタンを連続して 2回押し、システムをマニュアルモードにします。マニュアルモードになるとサイクルボタンが点滅します。エアバルブが開き、エアが接続したアイテムの中を流れます。サイクルボタンまたはストップボタンを押すまでエアが流れ続けます。

6.2.5 マニュアルモードを終了するには、ストップボタンを押します。サイクルボタンが点滅を止め、次の操作のためにシステムがリセットされます。



**注記：** マニュアルモードでは、サイクルボタンを押して、何時でもエアと液体の操作を入れ替えることができます。



**注記：** ボタンを押さなければマニュアルモードは1分後にタイムアウトになり、次の操作のためにシステムがリセットされます。

6.2.6 灌いだ器具からインストルメントインターフェースチューブを外します。

6.2.7 アイテムが清潔であるか目視します。

6.2.8 必要ならば、清潔になるまで操作を繰り返します。

## 6.3 フットペダルモード (オプション)

- 6.3.1 洗浄する器具にインストルメントインターフェースチューブを接続します。必要ならば、アクセサリフィッティングを使ってください (図 6-1 参照)。
- 6.3.2 接続された器具の出口をシンクまたは廃液容器に向けます。
- 6.3.3 液体のみ : FLUID と表示されたペダルを踏んで、接続したアイテムに水を流します。ペダルを開放するまで水が流れ続けます。
- 6.3.4 エアーのみ : AIR と表示されたペダルを踏んで、接続したアイテムにエアを流します。ペダルを開放するまでエアが流れ続けます。
- 6.3.5 フットペダルを開放するたびに、次の操作のためにシステムがリセットされます。
- 6.3.6 灌いだアイテムからインストルメントインターフェースチューブを外します。
- 6.3.7 アイテムが清潔であるか目視します。
- 6.3.8 必要ならば、清潔になるまで操作を繰り返します。

## 6.4 ポリボトルの再充填



注記 : ポリボトルは約 1000 mL の液体を入れることができます。

- 6.4.1 コンソールのバックパネルにある電源スイッチのオフ (O) を押します。
- 6.4.2 スリーブを小さな金属コネクタ側にスライドさせて、ボトルキャップからエアサプライチューブ (緑) を外し、ポリボトルの圧を開放します (チューブから水が噴き出さないようにするため)。
- 6.4.3 ボトルキャップのプラスチックコネクタの金属タブを押して、ボトルキャップからエア／リンス用チューブを外します。
- 6.4.4 ポリボトルを持ち、ボトルキャップを反時計回りに回して外します。ポリボトルをコンソールのウェルから出し、水平な面の上に置きます。
- 6.4.5 ポリボトルに蒸留水、脱イオン水、または滅菌水を満たします。



注意 : ボトルに水を入れ過ぎないでください。水が流れなくなります。

- 6.4.6 ボトルキャップから伸びたサイフォンチューブをポリボトルに入れ、ボトルキャップを回してしっかり締めます。サイフォンチューブがボトルの底に達していることを確認してください。
- 6.4.7 ポリボトルをコンソールの上のウェルに設置します。ポリボトルはボトルキャップの小さな金属コネクタがコンソールの後側を向く位置にします。

- 6.4.8 エアサプライチューブ（緑色）を、カチッという音がするまでボトルキャップの小さな金属コネクタに差し込み、再度接続させます。
- 6.4.9 ボトルキャップのプラスチック製コネクタにエア／リンス用チューブのプラスチック製フィッティングを、カチッという音がするまで差し込み、再度接続させます。
- 6.4.10 コンソールのバックパネルで、電源スイッチのオン (I) を押します。この状態で QuickRinse システムが使用できる状態になります。

## 7. アクセサリー

### 7.1 デュアルリンス“Y”アタッチメント

フェイコまたはIAハンドピースなど、2つの内腔を同時に濯ぎたい場合、付属のQuickRinseにはデュアルリンス“Y”アタッチメントを使います。

7.1.1 インストルメントインターフェースチューブを“Y”アタッチメントの脚部に接続します。（図7-1参照）。

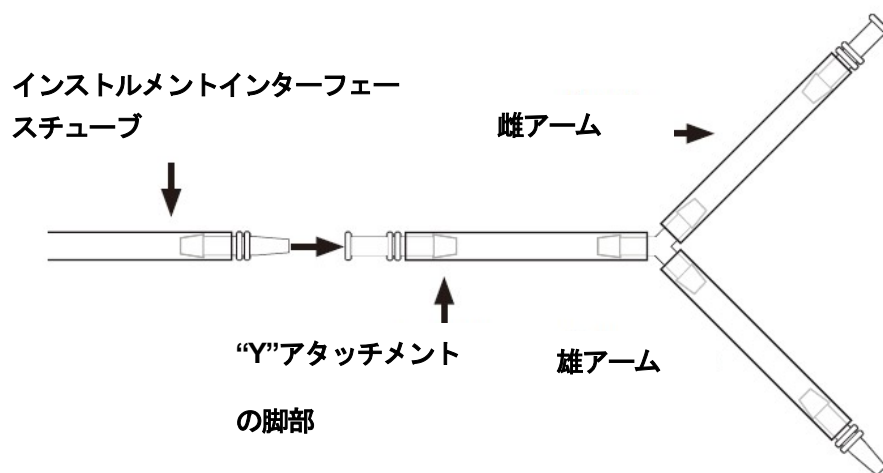


図7-1：デュアルリンス“Y”アタッチメントの取付け

7.1.2 リンスする器具の雄ルアーフィッティングを“Y”アタッチメントの雌アームに接続します（図7-1参照）。

7.1.3 リンスする器具の雌ルアーフィッティングを“Y”アタッチメントの雄アームに接続します（図7-1参照）。

7.1.4 システムは2つの内腔を同時に濯ぐ準備ができました。

## 7.2 ノーズコーンリンスアタッチメント

フェイコハンドピースの正面先端ノーズコーンから洗浄したい場合、QuickRinse に付属するノーズコーンリンスアタッチメントを使います。

7.2.1 リンスアタッチメントの太いチューブにハブを通し、フェイコハンドピースのノーズコーンを押し込みます。

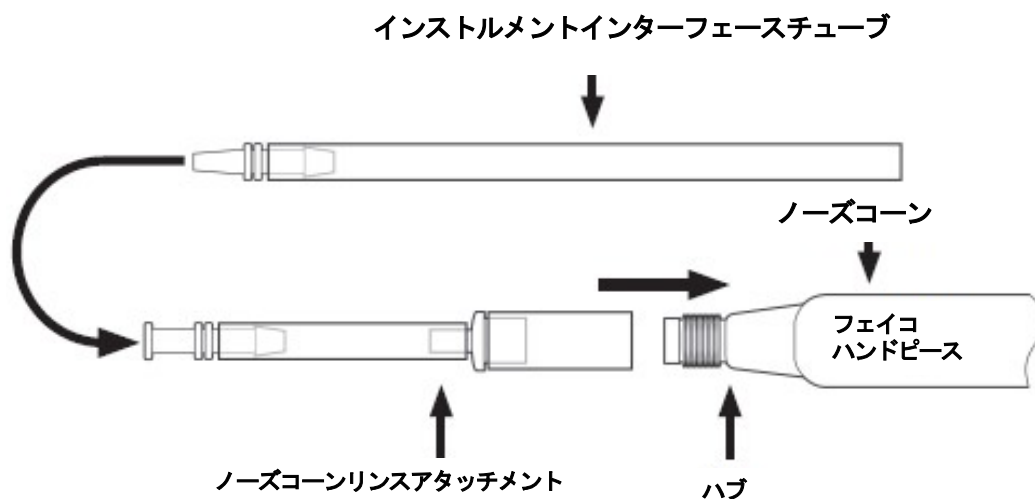


図 7-2 : ノーズコーンリンスアタッチメントの取付け



**注意：**強く押し込まないでください。リンスアタッチメントの大きなチューブの内側にある金属フィッティングがフェイコハンドピースのハブに当たり、破損させることがあります。

7.2.2 リンスアタッチメントの雌カプラーにインストルメントインターフェースチューブを接続します。

7.2.3 この状態でシステムは接続したフェイコハンドピースを濯ぐ準備ができています。

## 8. システムのクリーニングと滅菌

**8.1 作業中**は、QuickRinse コンソールの水気を拭き取ってください。サイクルスイッチとストップスイッチに水が付くと、摩耗が早まることがあるので、付着する水を最小限に留めてください。

**8.2 作業終了時**に、QuickRinse システムを以下の手順でクリーニングします。

- 8.2.1 インストルメントインターフェースチューブの出口をシンクまたは排水容器に向けます。
- 8.2.2 マニュアルモードまたはフットペダルモードにして、ボトルとチューブからできるだけ多くの液体を排出させます。
- 8.2.3 コンソールのバックパネルにある電源スイッチのオフ (O) を押します。
- 8.2.4 スリーブを小さな金属コネクタの方に滑らせて、ボトルキャップからエアサプライチューブ (緑) を外します。
- 8.2.5 ボトルキャップからエアー／リンス用チューブを外します。
- 8.2.6 ポリボトルを持ち、ボトルキャップを反時計回りに回して外します。ポリボトルをコンソールのウェルから取出し、横に倒して一晩乾燥させます。
- 8.2.7 POWER IN と表示された差込み口から 12V 電源コネクタを外します。
- 8.2.8 清潔な布と中性洗剤溶液 (例 : Valsure) を使って、作業で使用したコンソール、ボトル、チューブ、アクセサリアタッチメントの外側の表面を拭きます。
- 8.2.9 エアー／リンス用チューブからインストルメントインターフェースチューブを慎重に取り外します。
- 8.2.10 ナイロンブラシと中性洗剤 (例 : Valsure) を使ってインストルメントインターフェースチューブと、作業で使ったその他のアクセサリアタッチメントの内側と外側を掃除します。クリーニング後、蒸留水、脱イオン水、または滅菌水で濯ぎます。
- 8.2.11 インストルメントインターフェースチューブをエアー／リンス用チューブに再度取付けます。
- 8.2.12 その日に使用したボトル、ボトルキャップ、チューブ、および全てのアクセサリアタッチメントに劣化やダメージがないか調べます。必要ならば交換してください。



**8.3 作業した週の終わり**には、QuickRinse システムに以下のクリーニングと滅菌を行います。

- 8.3.1 上記の 10.2 項で説明した毎日のクリーニング手順を行います。
- 8.3.2 その週に使った全てのアクセサリアタッチメントを 70%イソプロピルアルコール溶液に 10 分間浸した後、取り出して乾燥させます。
- 8.3.3 ポリボトルに 70%イソプロピルアルコールを 100 mL 以上入れます。
- 8.3.4 ポリボトルにボトルキャップを付けます。
- 8.3.5 ポリボトルを振り回し、内面全体にアルコールを付着させます。
- 8.3.6 エアサプライチューブとエアー／リンス用チューブを再び接続します。
- 8.3.7 コンソールのバックパネルにある POWER IN と表記された差込み口に 12 V 電源コネクタを挿入し、電源スイッチのオン (I) を押します。
- 8.3.8 インストルメントインターフェースチューブの出口をシンクまたは廃液容器に向けます。
- 8.3.9 フロントパネルのサイクルボタンを押すか、FLUID と表記されたペダルを踏んで、溶液を流します。
- 8.3.10 5秒後にストップボタンを押します、あるいはFLUID と表記されたペダルを開放します。
- 8.3.11 10 秒間待つ十分に溶液と接触させた後、マニュアルモードまたはフットペダルモードにして、ボトルとチューブからできるだけ多くの溶液を排出させます。
- 8.3.12 コンソールのバックパネルにある電源スイッチのオフ (O) を押します。週末にはシステムを完全に組立てた状態にしておきます。

ポリボトル、ボトルキャップ、エアー／リンスチューブ、アクセサリアタッチメント、およびアクセサリフィッティング（青色と灰色のポリノズル以外）は、全て下記表の通りに滅菌することができます。

滅菌のタイプ	パルス	構成	最小滅菌温度	滅菌時間
重力置換 (N サイクル)	N/A	包装	132°C	18
重力置換 (N サイクル)	N/A	非包装	132°C	8
プレバキューム (B)	3	包装	132°C	8
プレバキューム (B)	3	非包装	132°C	4

## 9. 小さなゲージのカニューレと器具のリンス

20 ゲージ以下の小さなカニューレと器具は、以下の手順に従ってマニュアルまたはフットペダルモードで濯ぐことを推奨します。

- 9.1 リンスするアイテムにインストルメントインターフェースチューブを接続します。必要ならばアクセサリフィッティングを使います（図 6-1 参照）。
- 9.2 アイテムの出口をシンクまたは廃液容器に向けます。
- 9.3 フロントパネルのサイクルボタンを押すか、FLUID と表記されたペダルを踏んで、接続したアイテムに水を流します。
- 9.4 5 秒後に再びサイクルボタンを押すか、AIR と表記されたペダルを踏んで、接続したアイテムに通じるラインに残っていた水分をエアーで飛ばします。
- 9.5 25 秒後にストップボタンを押すか、AIR と表記されたペダルを開放します。接続したカニューレまたは器具のゲージサイズにより、エアーをさらに流すことができます。
- 9.6 ボトルキャップからエアサプライチューブ（緑）を外し、ボトルの圧を開放してから、再度チューブを取り付けます。
- 9.7 必要に応じて、きれいになるまでこの操作を繰り返します。

## 10. よくある質問 (FAQ)

### どのオペレーションモードを使うとよいですか？

内腔全体を濯ぐために多量の水が必要ない、ゲージの小さい器具はオートモードを推奨します。

内腔全体を濯ぐために多量の水が必要なチューブセットや器具、および 20 ゲージ以下の小さなカニューレや器具は、マニュアルモードとフットペダルモードがベストです。

### どのタイプの洗浄液を使うべきですか？

QuickRinse は通常、滅菌前の最後の濯ぎで使います。したがって、高純度の水、例えば蒸留水、脱イオン水、または滅菌水を使うことを推奨しております。

### 1 回のオートモードサイクルではどのくらいの量の水を使いますか？

接続した器具やチューブに流す水とエアーの量は、内腔径と長さ、同時に濯ぐ内腔の数、緩い接続や漏れ、および通常の摩耗や亀裂など様々な要因により変わります。

### ボトルに水を入れたまま一晩または数日間おいてもいいですか？

いけません。ボトルに水を入れたまま一晩または数日間放置すると、微生物が増殖し、膜の形成やミネラルの蓄積の原因となり、これらが次に洗浄する器具に移ります。

### ボトルキャップからフィッティングを外して掃除することができますか？

いいえ、このマニュアルで規定したクリーニング手順でフィッティングを十分にクリーニングできます。また、フィッティングは訓練を受けたスタッフだけが特殊な機材とツールを使って外し、再取り付けするものです。

### もっと強力で洗浄できると思います。なぜ、水流をもっと強くしないのですか？

水の最大出力圧で、クリーニング過程で使った洗浄溶液と緩んだ汚れを器具とチューブから十分に洗い流せます。このシステムは濯ぎのみのために設計されたものです。

## 11. トラブルシューティング

症状	考えられる原因	是正措置
水が流れない	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ボトルが空になっていませんか。</li> <li>2. ボトルキャップガスケットが付いていますか、または壊れていませんか。</li> <li>3. ボトルキャップがしっかり閉まっていますか、または壊れていませんか。</li> <li>4. 内部ポンプがボトルを加圧していますか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ボトルの水位をチェックしてください。</li> <li>2. ガスケットが設置されており、破損していないことを確かめてください。</li> <li>3. キャップがしっかり閉まっているか、破損していないかチェックしてください。</li> <li>4. 緑のエアサプライチューブがしっかり接続しているか確かめてください。</li> </ol>
エアフローがない	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ボトルキャップが緩んでいませんか、または破損していませんか。</li> <li>2. ボトルキャップガスケットが付いていますか、または壊れていませんか。</li> <li>3. 内部ポンプがボトルを加圧していますか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. キャップがしっかり閉まっているか確かめてください。</li> <li>2. ガスケットが設置されており、破損していないことを確かめてください。</li> <li>3. 緑のエアサプライチューブがしっかり接続しているか確かめてください。</li> </ol>
システムの電源が入らない	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. システムが電源に接続されていますか。</li> <li>2. 電源が故障していませんか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. POWER IN 接続を確かめてください</li> <li>2. 電源の出力部をチェックしてください。</li> <li>3. 電源スイッチをチェックしてください。</li> <li>4. 電源コードを抜き、システムを 10 分間放置してください。</li> <li>5. 電源を調べ、必要ならば交換してください。</li> </ol>

<p>液体とエアーの圧が低い</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 内部ポンプがボトルを加圧していますか。</li> <li>2. 緑のエアサプライチューブに漏れがありませんか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. キャップがしっかり閉まっているか確かめてください。</li> <li>2. 緑のエアサプライチューブがしっかり接続されているか確かめてください。</li> <li>3. 緑のエアサプライチューブに亀裂や漏れがないか確かめてください。</li> </ol>
<p>自動モードのリンスサイクルが逆になり、先にエアー、次に水が流れる</p>	<p>バルブのチューブを入れ替えていますか。</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 青のチューブを液体バルブに設置します。</li> <li>2. 透明のチューブをエアーバルブに設置します。</li> </ol>
<p>フットペダルが作動しない</p>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. フットペダルの差込み口が壊れていませんか。</li> <li>2. フットペダルのコネクタが壊れていませんか。</li> <li>3. フットペダルのプラグが差込み口に入っていますか、または接続が緩くなっていませんか。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. フットペダルの差込み口が壊れていないか確かめてください。</li> <li>2. フットペダルのコネクタが完全に差込み口に入っているか確かめてください。</li> <li>3. フットペダルのコネクタが破損していないか確かめてください。</li> </ol>

## 12. アクセサリー

製品番号	製品名 (数量)
425-4003-010	雌ルアーアダプター (10 個)
425-4004-010	雄ルアーアダプター (10 個)
430-4023-001	電源コード (120 VAC)
750-1100-001	電源アダプター (12 VCD)
750-2009-001	フットペダル
750-3001-001	ポリボトル (1000 mL)
750-3008-004	ボトルキャップガasket (4 個)
750-3010-001	完全なボトルアセンブリ (ボトル、ボトルキャップ、エアサプライチューブ、 エアー／リンス用チューブ)
750-3011-001	チューブ (エアサプライチューブ、エアー／リンス用チューブ) 付きボトルキャップ
750-3013-001	エアー用チューブ (緑)
750-3014-001	エアー／リンス用チューブ (青／白)
750-3015-001	ボトルキャップ (フィッティングとサイフォンチューブ付き)
750-4000-004	インストルメントインターフェースチューブ (4 本)
750-4001-001	デュアルリンス“Y”アタッチメント
750-5001-001	Centurion/Stellaris 用リンスアタッチメント
750-6019-001	ナイロンブラシ
750-7000-001	アクセサリフィッティングキット [雌ルアーアダプター (2 個)、雄ルアーアダプター (2 個)、16 ゲージのノズル (2 個)、22 ゲージのノズル (2 個) ]
750-7004-001	ノーズ・コーンリンスアタッチメント

## 13. カスタマーサービス

国内総販売元：株式会社ホワイトメディカル

住所：東京都荒川区東日暮里 5-48-2 TEL：03-3802-0655 / FAX：03-3802-0655